

第 172 回  
立教大学チャペルコンサート  
**Chapel Concert**

2025 年 11 月 20 日 (木) 開場 12:10 開演 12:40  
立教学院諸聖徒礼拝堂

中国琵琶

オルガン

苑蓉

スコット・ショウ

— プログラム —

\*は中国琵琶ソロ

金蛇狂舞(チンショアクアンウ)\*

聾耳(1912-1935)

中国の祝祭で演奏される、華やかで躍動感のある中国民間楽曲です。

春江花月夜(しゅんこうかげつのよ) \*

中国江南水郷の春の情景を描いた古曲の名作。曲は全 7 段から構成され、夕暮れの中に響く太鼓と鐘の音に始まり、月が昇り、花影が水面に重なり、雲煙が立ち込め、漁師の歌声が聞こえます。漁船が近づき、そして、遠ざかって行きます…

滝廉太郎《荒城の月》

スコット・ショウ編曲

《荒城の月》は、日本の作曲家・滝廉太郎(1879-1903)が1898年に作曲し、土井晩翠の詩に曲を付けた名歌曲です。西洋音楽の形式と日本的情緒が調和し、廃れた城に照る月の情景を通して無常と郷愁が表現されています。短調を基調とした旋律は哀愁と気品をたたえ、日本歌曲の傑作として今も親しまれています。

主催:立教大学

※会場内の飲食・撮影・録音はご遠慮ください。

## 日本聖公会「聖歌集」より聖歌第179番 “JIA-OU”

林声本（リン・シェンベン、1927-2022）は、中国の牧師・贊美歌作曲家であり、現代中国のプロテスタント教会音楽に大きな影響を与えました。福建省に生まれ、神学と音楽を学んだ後、上海の景靈堂教会で牧師を務めました。1985年刊『讃美詩・新編』の主要編集者として多くの贊美歌を作曲・編曲し、中国の旋法や五音音階を西洋和声と融合させた独自のスタイルを築きました。代表作の一つ「嘉欧（JIA-OU）」は、雅歌2章11-12節に基づく歌詞を持つ穏やかな3/4拍子の曲で、春の訪れと靈的な新生を象徴する温かく希望に満ちた旋律を特徴としています。

## 十面埋伏（じゅうめんまいふく）\*

この曲は、琵琶古典曲の中で最も代表的な武曲です。紀元前202年、『四面楚歌』の故事で有名な「項羽と劉邦」、その最後の戦いの様子を表現しています。曲は強い緊張感の中で作戦の太鼓を打ち、陣営を整えるところから始まります。そして戦争の場面へと展開し、出征、埋伏、戦い、さらに激しい戦闘の場面へと続いていきます。大軍の布陣する有様、軍太鼓やラッパの響き、何万頭もの軍馬が入り乱れて走り回る光景が、神業とも称される琵琶の演奏技法を駆使して描かれています。

### 苑蓉 Enyoh

中国・西安市出身。5歳より、叔父の曲文軍（北京中国音楽学院教授・中国琵琶研究会理事）に師事。西安では演奏会を行うほか、テレビ局レポーターも務めた。2009年に来日し、関西圏を中心に数多くのソロ・コンサートを行った。

2019年に東京へ拠点を移し、同年7月には国際琵琶コンクールで金賞を受賞。現在は関東を中心に演奏活動を行うほか、中国琵琶教室、中国語教室、中国太極拳教室を併せて主宰し、中国文化の魅力を広く伝えている。中国琵琶研究会会員。

### スコット・ショウ Scott Shaw

アメリカ・シアトルのワシントン大学においてオルガンとハープシコードを学ぶ。ニューヨーク州ロチェスターのロチェスター大学イーストマン音楽院にてオルガン、合唱指揮法、音楽史を学び、1987年に修士号、1991年に演奏博士号を取得。1989年から2002年まで長崎の活水女子大学音楽学部教授、同大学及び短期大学チャペルオルガニストを務める。アメリカ、イギリス各地のほか、日本国内では、サントリーホール、東京芸術劇場など様々な場所でソロオルガニストリサイタルを行う。16世紀から21世紀に至る作品を立教大学チャペル聖歌隊の活動を通して研究、演奏し、さらに、モーツアルト、フォーレ、カンプラー等のレクイエムや様々なミサ曲を含むコーラスとオーケストラのための作品を指揮する。また、日本国内の教会音楽家達の働きにも関心を示し、立教大学教会音楽研究所や日本聖公会の活動に積極的に取り組んでいる。

現在、立教学院教会音楽ディレクター、立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊隊長及び立教大学文学部キリスト教学科特別専任教授。